

イチゴにおけるIPMの推進と 「いばらキッス」導入へ向けた取り組み

行方普及センターでは「行方地域イチゴ生産者経営研究会」に対し、IPM（総合的病害虫管理）の推進や、収量の安定向上を目的とした支援を行っています。IPM推進の一環として天敵昆虫の導入を支援した結果、平成23年度の導入は26戸、5.4ha（平成22年度；4戸、0.18ha）に拡大しました。また、厳寒期の「中休み」と呼ばれる収量低下対策の一つとして、県育成品種「いばらキッス」の収量安定性に着目し、導入に向けた活動を行いました。

現場の課題解決に取り組む

「行方地域イチゴ生産者経営研究会」

「行方地域イチゴ生産者経営研究会」は、普及センターが事務局となり、年2回の現地検討会や講習会を行っています。生産組織や市町村の枠、立場を超えて会員が集い、イチゴ栽培に関する課題を検討しています。50年以上の歴史を持つ当地域においては難防除病害虫の発生や中休みが近年の課題となっていました。



生産者の関心が高い天敵昆虫導入説明会



生産者から問題が出される現地検討会

IPMの推進

ハダニの防除対策として天敵昆虫を導入するため、普及センターでは天敵導入暦を作成して、天敵昆虫と併用可能な農薬の使用徹底を図りました。また、花芽検鏡用苗におけるハダニの付着状況検査で定植期前後の防除徹底を推進し、さらに、JA、天敵販売メーカーと連携してほ場を巡回し、栽培管理を支援しました。

「見せる」「食べる」で 選んだ『いばらキッス』

中休みの対策として、「とちおとめ」を補完する有望品種の実証ほを農業経営士の協力の下に設置し、当地域における栽培性や食味について検討しました。その結果、「いばらキッス」は中休みが少ないだけでなく、食味も優れているとの評価を得て、本格導入に向け始動しました。



いばらキッスの特徴が現れた品種比較実証ほ